

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
①	おおやま 大山	未指定	<p>都心から約 50km、神奈川県西部、丹沢山地の東麓に位置する標高 1,252m の山。以東には筑波山まで高い山がないことから、関東一円から山容を望むことができる。</p> <p>古くから山岳信仰の地として崇められ、山頂からは約 5,000 年前の縄文土器や古墳時代の土器、祭儀に用いられたと思われる平安時代の鏡などが発見されている。</p>	
②	りょうぜんじ 霊山寺 ほうじょうぼう (現・宝城坊。 ひなたやくし 通称・日向薬師)	国重文(本堂・建造物)	<p>霊亀 2 (西暦 716) 年に行基により創建されたと伝わる寺。神仏分離を契機に宝城坊となる。</p> <p>暦応 3 (西暦 1340) 年鑄造の銅鐘(国重文・工芸品)には、初代の鐘が天曆 6 (西暦 952) 年に村上天皇の発願によって造られたことが記されており、厨子(国重文・建造物)に納められている本尊の鉦彫薬師三尊像(国重文・彫刻)も同時期の作とされる。平安時代末から鎌倉時代にかけての作とされる木造薬師如来坐像(国重文・彫刻)、木造日光・月光菩薩立像(国重文・彫刻)、木造阿弥陀如来坐像(国重文・彫刻)、木造四天王立像(国重文・彫刻)などの仏像も祀られている。</p> <p>当寺には、源頼朝や妻の北条政子も参拝しており、直径約 1.4m の大太鼓(県有形民俗)は頼朝の奉納と伝えられている。</p>	
③	せきうんじ 石雲寺	未指定	<p>寺伝により養老 2 (西暦 718) 年の開創と伝わる寺。</p> <p>雨降山の山号をもつ元華嚴宗の寺院で、壬申の乱で敗れた大友皇子を祀る。</p>	
④	おおやまであら 大山寺	未指定	<p>大山詣りで納め太刀を奉納した寺。</p> <p>天平勝宝 7 (西暦 755) 年に奈良東大寺の長官であった良弁僧正が、聖武天皇の命により開創したとされ、平安時代末の木造不動明王坐像(県重文・彫刻)を祀り、鎌倉時代作の鉄造不動明王像(国重文・彫刻)を本尊とする。</p> <p>明治の神仏分離までは現在の大山阿夫利神社の下社がある位置にあり、江戸時代には徳川家康、家光ら幕府の後ろ盾により、本堂をはじめとする大規模な建物群が造営されていた。</p> <p>明治の神仏分離により廃寺となるが、熱心な信者の力により明治時代中頃に本堂が現在の地に再建され、当時は明王寺と称していたが、大正時代になって大山寺として再興された。</p>	

⑤	てつぞうふどうみょうおう 鉄造不動明王 に どうじぞう 及び二童子像	国重文(彫刻)	大山寺の本尊であるこの不動明王への参拝が大山詣りの目的のひとつであった。 鎌倉時代に願行上人により造られたとされる鉄仏で、荒々しい力強さが多くの信仰を集めた。	
⑥	あふりじんじゃ 阿夫利神社 おおやま あふり (現・大山阿夫利 じんじゃ 神社)	未指定	山頂に石尊大権現を祀る延喜式神名帳に掲載されている神社で、大山寺とともに、大山詣りの目的地のひとつであった。 長く神仏混淆の状況が続いたが、明治政府の神仏分離政策により大山寺が廃されると、大山寺の不動堂(本堂)跡地に阿夫利神社の下社が建立され、山頂には本社が建てられた。	
⑦	ひびたじんじゃ 比々多神社	未指定	持統 5 (西暦 691)年に相模国の国司がこま犬(市指定)を奉獻したとの伝承があり、相模地域屈指の副葬品を有する古墳に囲まれるように建つ延喜式神名帳に掲載されている神社。	
⑧	たかべやじんじゃ 高部屋神社	未指定	延喜式神名帳に掲載されている神社で、平安時代に大山一帯を含む糟屋荘を支配した、糟屋氏のゆかりと伝えられている。	
⑨	おおやまみち どうひょう 大山道の道標	未指定	各地からの参詣者を大山へと導いた石造りの道標。側面には「大山道」と彫り込まれ、大山にちなんで不動明王を載せているものもある。 大山へと向かう道は、柏尾通り大山道、田村通り大山道など、主要なものだけでも 8~10 のルートがあったとされる。現在も、市内には多くの道標が残されている。	
⑩	おさ だち 納め太刀	未指定	大山詣りに講中が江戸から担いでくる木太刀。源頼朝が武運長久を祈願して自分の刀を大山寺に奉納したとされることに由来し、この木太刀に願いを書き、大山寺や山頂の石尊大権現に奉納した。 木太刀は当初 30 cmほどであったが、中には 7 mを超えるものも納められるようになった。	
⑪	もとだき 元滝	未指定	大山詣りでは、大山山内に数箇所ある滝で滝垢離を行い、身を清めた後に登拝することがならわしであった。 現在も、当時、滝垢離で使われた滝が残されている。	
⑫	ろうべんだき 良弁滝	未指定		
⑬	あたごだき 愛宕滝	未指定		
⑭	おおたき 大滝	未指定		

⑮	<p>おおやま 大山や大山詣りの 様子が描かれた 「浮世絵」 (伊勢原市教育委員 会所蔵)</p>	未指定	<p>うたがわひろしげ ○歌川広重「五十三次名所図会七南期(湖)左り不二」安政 2 (西暦 1855)年 =東海道から見える富士山と大山が描かれている。</p> <p>ぜんぼくさいいっ かつしかほくさい ○前北斎為一(葛飾北斎)「諸国瀧廻り 相州大山ろうべんの瀧」文政末頃 =良弁滝での滝垢離の様子が描かれている。</p> <p>ごうんていさだひで ○五雲亭貞秀「相模国大隅郡大山寺雨降神社真景」安政 5 (西暦 1858)年 =大山の入口から山頂石尊社までの大山寺境内地と、さらに富士山、高尾山、江ノ島、伊豆半島など、大山から見える名所を描いている。</p> <p>ごうんていさだひで ○五雲亭貞秀「大山良弁図」元治元 (西暦 1864)年 =参詣者の滝垢離でにぎわう良弁滝の様子が描かれている。</p> <p>うたがわよしとら ○歌川芳虎「大山石尊大権現(仮題)」文久 2 (西暦 1862)年 =大山を背景に、中央に鈴を持った歌舞伎役者の中村芝翫、右に提灯を掲げた坂東彦三郎、左に「石尊大権現」と朱文字で書かれた木太刀を持つ河原崎権十郎が描かれている。</p> <p>うたがわよしくに ○歌川豊国「大當大願成就有が瀧壺」文久 3 (1863)年 =「奉納大山石尊大権現 大天狗 小天狗 天下泰平 国土安穩講中安全」と書かれた大きな木太刀を持つ男など、7 人の役者がふんする粋な参拝者が滝垢離する姿を描いている。</p> <p>とよはらくにちか ○豊原国周「見立水滸傳當瀧壺」慶応 3 (西暦 1867)年 =歌舞伎役者の市川団十郎が滝を背景に諸肌脱いで、納め太刀を持った姿が描かれている。</p> <p>ほか</p>	
⑯	<p>参道沿いに建てられた宿坊 しゆくぼう</p>	未指定	<p>大山講中を宿泊させた宿屋で、御師(現在の先導師)の自宅を兼ね、屋内に阿夫利神社の分霊を祀る神殿が設けられているのが特徴である。</p> <p>宿坊は、大山の参道沿いに今も残り、現在まで脈々と引き継がれている大山講の講中の宿泊はもとより、一般の来訪者にも宿や食事を提供している。</p>	
⑰	豆腐料理	未指定	<p>各地の大山講中から寄進された大豆を利用し、大山の清水で作った豆腐の料理が参拝客に振る舞われた。</p> <p>もともとは精進料理であったが、現在では現代風な調理を取り入れた地元の名物として定着し、来訪者に提供されている。</p>	

⑱	大山こま	未指定	金回りが良くなるという縁起物で、大山の木地師により製作された大山土産のひとつ。現在も大山の代表的な土産物である。	
⑲	ほうじょうぼう 宝城坊(日向薬 師)の「神木のぼり」	未指定	修験者が修行のための入山前後に行う儀式で、現在も宝城坊の春の例大祭において再現されている。 修験者たちが斧や弓で周囲を清めた後、5mほどのシイの木に登って安全祈願の書状を読みあげる。木から降りると護摩を焚き、火渡りが行われる。	
⑳	おおやまあふりじんじゃ 大山阿夫利神社 やまとまいみこまい の倭舞・巫子舞	県無形民俗	奈良春日大社伝承の舞で、現在も大山阿夫利神社の秋季例大祭などで奉納される。	
㉑	おおやまあふりじんじゃ 大山阿夫利神社 のうきょうげん の大山能狂言	市指定 (無形民俗)	大山に江戸時代から伝わる伝統芸能で、300年を超える今も大山能楽社保存会により引き継がれ、大山阿夫利神社の秋季例大祭などで奉納される。	